



カタツムリには、どんな仲間がいるの

日本には、およそ700種いる

カタツムリは、陸にすむ陸貝の仲間です。陸貝は、小さくて目につきにくいものが多い、大型の目につくものが、カタツムリとよばれています。オナジマイマイ科とか、ウスカワマイマイ科というグループが、日本全国に見られます。

大型のカタツムリは、オナジマイマイ科のものが多く、野菜などについている、小さくて、殻もうすいカタツムリが、ウスカワマイマイです。

日本は、南の九州から北の北海道まで、細長く広がった島なので、場所によって気候や環境もずいぶんちがいます。カタツムリは、野菜などにくっついて、遠くに運ばれるようなことがたまにありますが、ふつうは、はって移動するしか方法がありません。そのため、こん虫などのように、広い地域に移動することができないので、地方によって、すんでいるカタツムリの種類がちがってきます。カタツムリは、どれもよく似ていますが、くわしく比べると、ちがいがあるのです。

ナメクジは、カタツムリの殻が退化して、なくなった仲間です。

大きいものは、殻が19センチメートル

世界で最大のカタツムリといわれているのは、アフリカのメノウアフリカマイマイで、殻の直径が19センチメートルもあります。日本で大型のものは、クロイワマイマイで、殻の直径が約6センチメートルあり、長野、岐阜、石川、福井の各県の森林で生活しています。沖縄の原生林にすむ、ヤンバルマイマイも、殻の直径が6センチメートルぐらいあります。

(監修・中山 周平)

